

読書の秋

自分が変わる、世界が変わる、 本との出会い

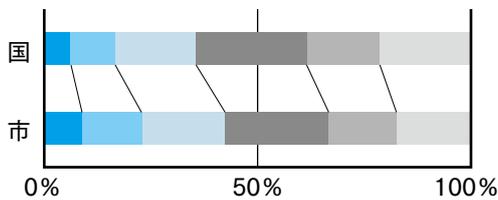
— 学校読書から生活読書に向けて、今、学校では —



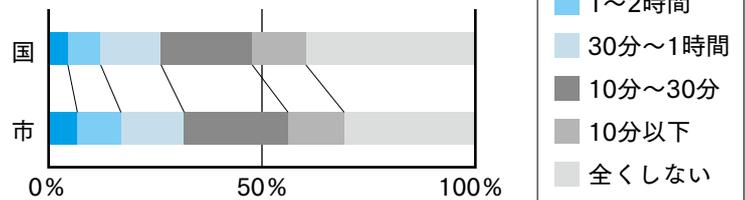
学校図書館司書による読み聞かせ

市では、「成田市子どもの読書活動推進計画」に基づき、市内の小中学校全校に学校図書館司書を配置し、発達段階に応じた読書活動の充実に努めています。

小学生 1 日読書時間（2009 年全国学力状況調査）



中学生 1 日読書時間（2009 年全国学力状況調査）



読書に親しむ機会を提供

市では、小中学校の児童・生徒が読書に親しみ、読書習慣を身に付けることができるよう、次のような取り組みを行っています。

○ 一斉読書活動（「朝の読書」など）や読み聞かせを、継続して全校で実施する

○ 各学校で、推薦図書目録を作成したり、図書館以外にも図書コーナーを設けたり、卒業までに一定量の読書を行うことを推奨するなど、独自の読書目標を設定する

○ 各教科・総合的な学習の時間などを通じて、文学的な内容の図書だけではなく、新聞や科学雑誌など、多様な種類の読み物に親しめるような読書を促す

学校図書館の整備・充実

学校図書館は、児童・生徒の読書活動や読書指導の場として、豊かな心を育む読書センターとしての機能、児童・生徒が主体的に学ぶ学習情報センターとしての機能を果たし、学校教育の中核的な役割を担うことが期待されており、次の取り組みを行っています。

○ 子どもの知的活動を増進させるため、多様な興味・関心に応え

る魅力的な図書資料を整備する
○ 学校図書館コンピュータシステム導入により、迅速で効率的な蔵書検索、図書の貸し出し・返却、利用者管理を図る

○ 学校図書館司書などの研修会を開催する

これらの結果、上記グラフの通り、小中学生の 1 日の平均読書時間が全国平均を上回るようになりました。また、平成 21 年度の市内の各学校図書館の総貸し出し数から割り出した、1 年間の 1 人当たりの平均貸し出し数は、小学生 39・2 冊、中学生 12・2 冊となり、どの学校でも年々総貸し出し数が増加しています。

未来に向けて

読書は、子どもが自分自身を見つめ、生き方を考え、豊かな心を身に付けていくのに大きな役割を果たします。

学校での読書の時間を確保するだけでなく、子どもが生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるよう、市では今後も、家庭・地域の図書ボランティアや市立図書館などと連携して、児童・生徒の読書活動の充実に取り組めます。

※くわしくは教育指導課 ☎ 20・1582(2)へ。